

# フリーター

1. はじめに
2. フリーターの実態
  - 2.1 フリーターの定義
  - 2.2 フリーターの数
  - 2.3 フリーターの類型
3. フリーターの意識
  - 3.1 フリーターになった理由
  - 3.2 フリーターを選択できる理由
  - 3.3 フリーターの声
4. 社会保障のしくみへの影響
  - 4.1 単身世帯収支調査より
  - 4.2 税金への影響
    - 4.2.1 税金のしくみ
    - 4.2.2 税金の種類
    - 4.2.3 どのような影響があるか
  - 4.3 保険への影響
    - 4.3.1 パートタイマー、契約社員の社会保険について
    - 4.3.2 健康保険と厚生年金
    - 4.3.3 雇用保険について
5. 政策にできる事
6. まとめ

## 1. はじめに

総務省が発表した労働力調査によると、2002年5月の完全失業率は前月より0.2ポイント悪化して5.4%となるなど、現在、日本では厳しい就業環境にあることがわかる。一方で、若年層においては、定職につかず、フリーターの道を選ぶ人が増えてきた。

## 2. フリーターとは

### 2.1 フリーターの定義

まず、フリーターの定義について、整理する事にする。

労働省の「平成 12 年版労働白書」では、フリーターを以下のように定義付けている。

年齢は 15～ 34歳と限定

現在就業しているものについては、勤め先における呼称が「アルバイト」又は「パート」である  
雇用者

男性 継続就業年数が 1～ 5年未満の者

女性 未婚で家事も通学もしておらず、「アルバイト・パート」の仕事希望する者

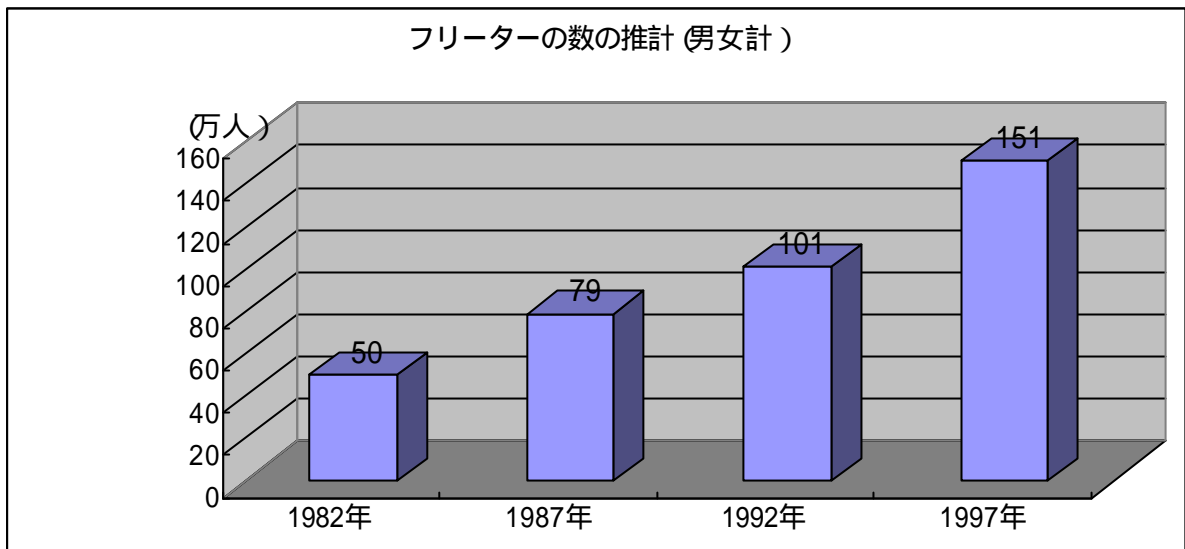
つまり、15～ 34 歳で、学生や主婦ではなく、アルバイトで働いて 5年未満の人と、アルバイトを  
探している人をフリーター とすることができるだろう。

## 2.2 フリーターの数

フリーターの数、1982年の段階では 50万人、1987年では 79万人と徐々に増えてきて、1992年で 101万人、1997年ではとうとう 150万人を突破した。近年の増加は著しく、1992 年から 1997 年までの 5 年間で 1.5 倍にもなっている。また、2001 年の時点で、フリーターは 200 万人を超えていると言われている。さらに、リクルート社の「フリーター白書 2000」では、フリーターに「アルバイト」「パート」に加え「人材派遣企業の派遣社員」「その他」を含め、年齢も限定していないため、その数は 344 万人としている。日本の雇用形態は変化しつつあるということがわかる。

また、今春の高校卒業生で就職を希望した人の就職率は 88.2% で、調査を始めた 77 年以来最悪の数字となっている。学校基本調査(文部省)によれば、高卒無業者比率は、バブルが完全な崩壊を迎えた 1993 年以降急上昇し、2000 年には 35% 近くまで達した。高卒の三人に一人がフリーター(あるいは無職)になっていることになる。ただしこれは高卒者のみにかぎられないことであり、大卒無業者比率も 2000 年には 27% を記録しているという。

(図 1)



総務庁統計局「職業構造基本調査」を労働省政策調査部で特別集計

なぜ、フリーターは増加したのであろうか。フリーター増加の原因は主に二つある。第一に、景気の悪化による就業環境の悪化により雇用構造が変化している事があげられる。具体的には、不景気の為に企業側が人件費削減策をとるようになり、企業が自分の会社で育成する人材を厳選するようになってきていると言う事である。そして、正社員の選考にもれてしまった学生の一部がフリーターになっていく。たとえ就職出来たとしても、失業率も高いため、会社に定着する期間も短くなり、正社員として働く利点がなくなってしまう。また、景気の低迷により、学校による就職指導や教師からのアドバイスにも変化がみられる。学校自体が以前のように就職先との交流が少なくなったため十分な情報を持たず就職指導や推薦が困難になった。

また、フリーター増加の原因は労働供給側の意識の変化もある。フリーターのメリットを挙げるとすれば自由である、さまざまな経験ができる、休みがとりやすい、などがある。そしてその背景には世間が「会社員」をネガティブにとらえすぎる。自営業率の低下などにより、「働いている人」を身近で見る機会が少ない、高卒で就職できる企業が少ないということがあげられる。これらの理由により、結果としてフリーターを選ぶ人も少なくない。

以上のことから、就業意識の変化と社会構造の変化が若者のフリーター化を促進したといえるのではないだろうか。

### 2.3 フリーターの類型

#### c. モラトリアム型

| 類 型       | 概 要                                       | 割 合            |
|-----------|---|----------------|
| 離学モラトリアム型 | 就職や将来に対する見通しを持たずに教育機関を中退・終了し、フリーターとなったタイプ | 男性の4割<br>女性の4割 |

|           |                                  |  |
|-----------|----------------------------------|--|
| 離職モラトリアム型 | 離職時に当初の見通しがはっきりしないままフリーターとなったタイプ |  |
|-----------|----------------------------------|--|

#### b. 夢追求型

| 類 型          | 概 要  | 割 合            |
|--------------|--|----------------|
| 芸能志向型        | バンドや演劇、俳優など、芸能関係を志向してフリーターとなったタイプ                    | 男性の2割<br>女性の3割 |
| 職人・フリーランス志向型 | ケーキ職人、バーテンダー、脚本家など、自分の技能・技術で身を立てる職業を志向してフリーターとなったタイプ |                |

#### c. やむを得ず型

| 類 型          | 概 要  | 割 合            |
|--------------|--|----------------|
| 正規雇用志向型      | 正規雇用を志向しつつフリーターとなったタイプ、特定の職業に参入機会を待っていたタイプ、および比較的正社員に近い派遣を選んだタイプ | 男性の4割<br>女性の3割 |
| 期間限定型        | 学費稼ぎのため、または次の入学時期や就職時期までといった期間限定の見通しを持ってフリーターとなったタイプ             |                |
| プライベート・トラブル型 | 本人や家族の病気、事業の倒産、異性関係などのトラブルが契機となってフリーターとなったタイプ                    |                |

以上の表から、夢追求型が占める割合が最も低い事がわかる。「フリーター」の名付け親である道下裕史氏は、フリーターを既成概念を打ち破る新自由人種。敷かれたレールの上をそのまま走ることを拒否し、いつまでも夢を持ち続け、社会を遊泳する究極の仕事人」とした。しかし、いまや従来のフリーター像とは異なるフリーター像が主流となっていると言えよう。

### 3. フリーターの意識

#### 3.1 フリーターになった理由

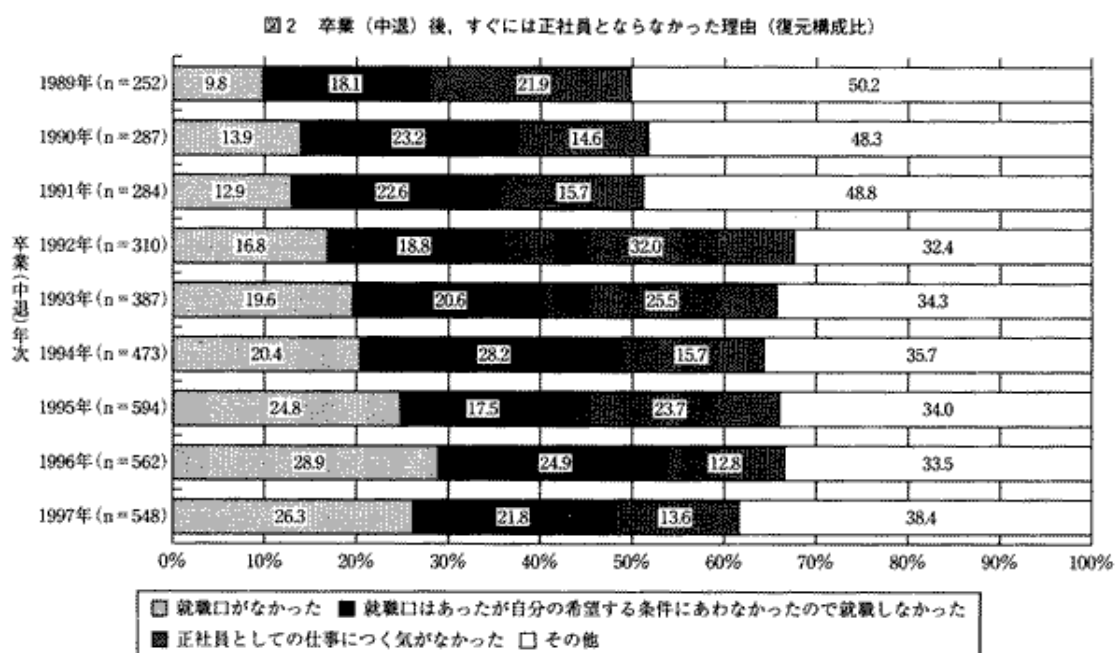
リクルートサーチの「アルバイトの就労等に関する調査」によるとフリーターになる動機や理由は以下のようになっている。

(図 2) フリーター類型別フリーターの動機、理由(複数回答) (単位:%)

| 動機、理由                      | 自己実現型 | 将来不安型 |        |
|----------------------------|-------|-------|--------|
|                            |       | 非自発型  |        |
| 自分に合う仕事を見つけたいので、それまではアルバイト | 48.6  | 50.0  | (50.0) |
| アルバイトの方が働く時間を自由に決められるから    | 44.4  | 43.8  | (25.0) |
| 仕事以外にしたいことがあり、両立しやすい働き方である | 43.1  | 24.1  | (21.9) |
| 将来の夢、希望を実現するため             | 38.9  | 11.6  | (9.4)  |
| 自分をまだ一定の枠にはめたくないから         | 27.8  | 22.3  | (3.1)  |
| 定職だと会社に拘束されることが多くなるから      | 25.0  | 26.8  | (21.9) |

資料出所: 『アルバイトの就労等に関する調査』(2000年)/リクルートサーチ

(図3)



資料出所: 日本労働研究機構論文データベース(学校から職場へ)

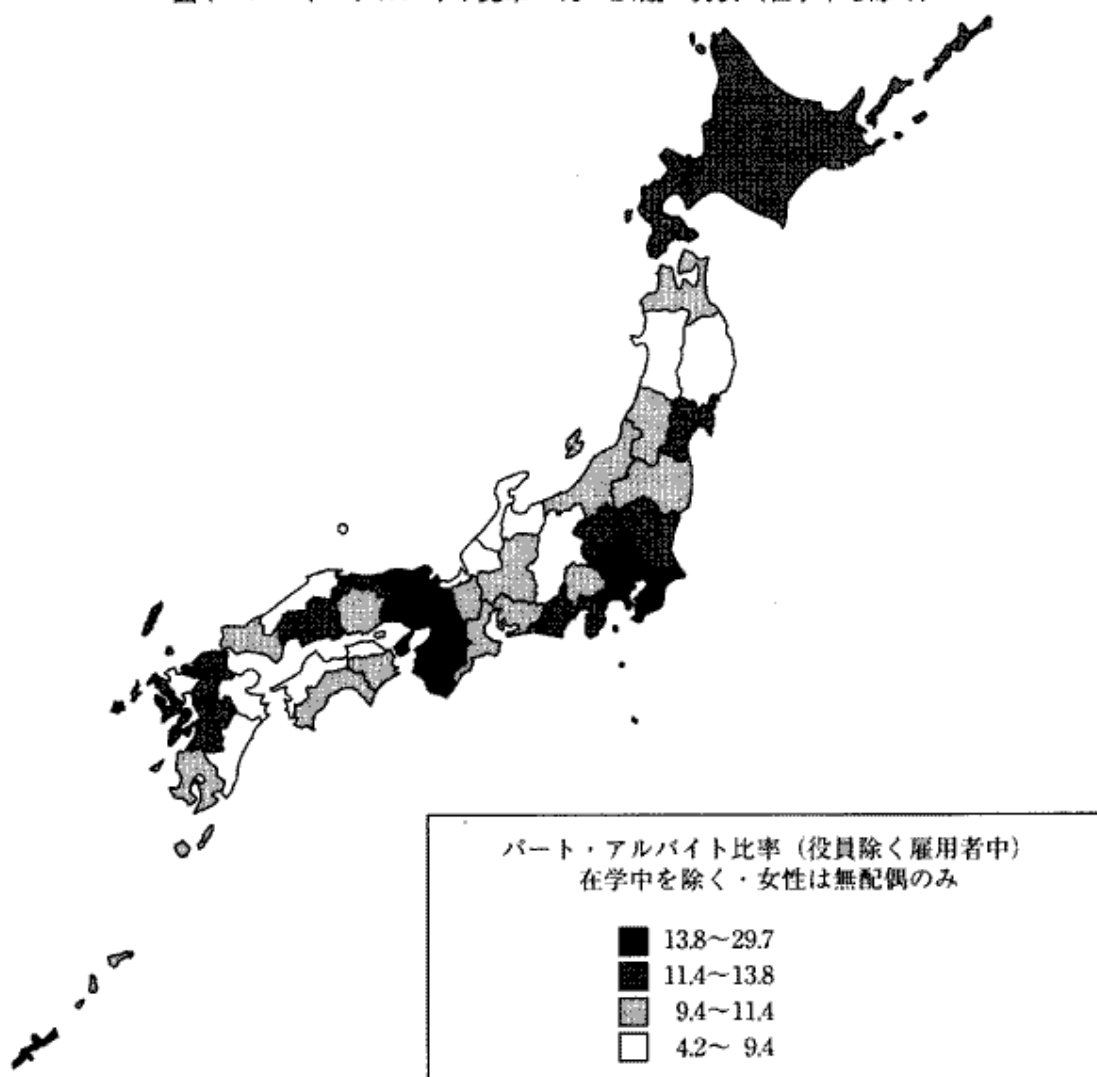
図2では、自分に合う仕事を見つけたいという意見が自己実現方及び将来不安型ともに多くを占めている。したがって、もし自分にあった仕事を見つけることができたならば、正社員になりたいと考えている人が多いということがわかる。しかし一方で、図3では若年者の就業意識のこだわりを表す「就職口はあったが自分の希望する条件に合わなかったので就職しなかった」とい割合をみても全ての年次で20%台前半に収まっている。よって現代の若者が仕事へのこだわりが強いとも弱いとも言えない。さらに、「就職口がなかった」の項を見ると、1989年卒業年次では9.8%だっ

たのに 1997 年卒では 20%台後半まで上昇している。現実には、フリーターは増えつつある。その理由を、次の項目で見えてみることにする。

### 3 2フリーターを選択できる理由

(図 4)

図1 パート・アルバイト比率・15～24歳・男女（在学中を除く）



資料出所：総務庁（1997）「就業構造基本調査」

\* 日本労働研究機構論文データベース（増加する...）より

図 4 で示されているように、フリーターは全国に均一に多く存在するわけではなく東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏と和歌山・京都・奈良・大阪・兵庫の関西圏の多くいることがわかる。これはフリーターが都市に集中して存在していることを示す。都市には地方よりパート・アルバイトの就職先が沢山あるからであろう。

不安定で高い収入が得られないフリーターが増えるのには、親の経済力の支えがあるからではないか。卒業後すぐに若年者が安定した収入を得る仕事につかなければ生活出来ないほどの状況ではないのだ。

### 3.3 フリーターの声

NHK BS 1 の討論サイトから現在フリーターとして生活している若者の声をまとめた。

NHK BS 1 インターネットディベート

<http://www.nhk.or.jp/debate/old/th/j/01/j01deblist.htm>

#### 十年前に何をしたいと考えていましたか？

- (女)「何をしたいのか」分からない状態で、取りあえず社会勉強のつもりで就職したが、「眠る為に帰るだけ」の生活が無意味に思えてきて最近仕事を辞めた。今も何をしたいのか分からない状態で、日々を過ごしている。
- (女)10年前、14歳の時には、具体的にはこういう大人になりたいというのはなくて、もっと抽象的...美人で大人で仕事が出来て...なんてことを考えていた。10年前予想していたよりも遥かに、今の自分は子供のままだった。よくよく考えてみると、10年前と悩みはあんまり変わっていない。
- (女)子供の頃はなりたい自分には努力すれば必ずなれるものだと思っていた。でも、大人になるにつれ両親のミエや世間体から私の希望する職業にはつけなかった。今の自分は大嫌いだ。結局、子供は親の理想を押し付けられそのとおりに生きて行くしかないのだ。
- (女)ちゃんと言葉で表現出来る職業(コックさん・お花屋さん)をしていると思っていた。実際はちゃんと単語で表せる職業に就くには、並々ならぬ努力が必要だと知った。「何になるか」ではなくて「何をするか」が重要だ。今は自分自身、何が出来るのか、何をしたいのか、を模索しているところだ。10年前に思っていたより、もっと世の中は複雑で、自分自身の事もよく把握できてないということが、実感である。
- (女)10年前の私は、近い将来、高学歴で高収入の人と結婚して優雅なマダムになると信じていた。仕事のことなんて考えたことなかった。現在の私はフリーターで貧乏で、結婚よりも仕事のことを第一に考えている。どちらの道がよかったのかまだわかりませんが、「いまの自分」の方がおもしろいと思う。
- (男)家庭でも学校でも、皆と同じ様に高学歴を取り、就職して会社員になる事を求められていたけれど、なぜかそれに疑問を抱いていた。「働く」とはどういう事を教えてもらった覚えも、全くない。具体的にどんな社会人になっているだろうかと言うイメージは、何もなかった。自分の好きな学歴を取り、長いフリーターを経て、今感じる事は、『会社員』は世の中に沢山ある職業の中のたったひとつなんだ」という事に気がついてよかった、という事だ。
- (男)10年前といえば中学生だった。その頃は自分がどんなオトナになっているかなんて考えた事はなかった。オトナの見本だったオヤジはサラリーマンだったので、将来、自分もそうなるのか

など思っていた。日本の教育社会の上昇志向というものに取り付かれてしまっていた。何かになりたいと思っていた自分から、ただ単に立派な会社に勤められればいいという自分に変わってしまった。そして行き着く先はフリーターでした。でもこうなった事で昔のように何かになりたいという自分を取り戻せるような気がします。フリーターになれて良かったと思っている。

- (男) 10年前は中学生で、将来の事は全くといっていいほど考えていなく、漠然と大学に行き、企業に就職するという事を考えていた。それから10年たって大学は中退し、昔の予定通りには行かなくなったのだが、今考えると、ただ大学を卒業して普通に就職するよりは視野が広がったように思う。大学に行き、そして就職するという道を歩いては、まず今の世界は見えなかったと思う。

### **「無職」・「フリーター」の違い**

- (女)「無職」というのはいわゆる「ぶー」太郎な生活を送っている人のことだと思う。これは社会に労働力を持って貢献していない人たちのことで、逆に「フリーター」というのは正社員ではなくても、社会に貢献している労働者のことだと思う。
- (男)「無職」と呼ばれる立場は、働く意志のない人々のことであると思う。働くことに意欲がある人々は、フリーターだろうが、正社員だろうが、なんらかの形で仕事についているでしょう。
- (男)言葉じたいには境界線はないと考える。要は本人の意識次第でしょう。例えば向上心があるか、ないかなど。プータローというのも同じじゃないか？
- (男)僕が思うに、お金がなくなった時に、まず稼ごうと、仕事を探すことを考えるのがフリーター。そして、なんとか働かないで乗り切ろうとするのが、無職の人。つまり外から判別するのは難しいように思う。本人の意志のところ、その境界線はあるのだと思う。

### **フリーターの生活に が加わればいい**

- (女)「やり直しがきく社会」が非常に良いと思う。どんなことにも受け皿が必要で、もし受け皿という言葉に抵抗があるなら、誰にとっても常にリプレイできる環境作りは必要ではないだろうか。そしてリプレイする人を負け犬のように皆に扱って欲しくはない。
- (女)社会身分。運転免許を取るお金もない私はずばり「身分証明書」。保険証をいつも持ち歩く訳にもいかず、また、携帯電話の加入などは保険証だけでは身分証明書として扱ってもらえない。
- (男)フリーターにあつたらいいのは、働いた経験が自分の将来の財産になるための、「重い責任」とか「高度な判断が必要な仕事」とか「教育」とか、つまりスキルが身につくための環境だ。歳相応のスキルが身についていれば、脱フリーターだって難しくないはずだ
- (男)フリーターにとって年金とか国民保険の支払いがどれだけ厳しいか、フリーターの方は日々実感していると思うが、この支払いをしなくてもいいなら結構生きやすくなるのでは？年金をどうにか撤廃してほしい。どうせ、私が年老いた時には大して年金をもらえないご時世になっているだろうし、それを思うとかなり払う気もせず。社会的にも身分が認められ、フリーターの労組なども確立していければ良いと思う。

- (男) “正社員” とならなくてもその人の労働時間や仕事内容や働きぶりで少しずつ労働条件が良くなるような制度にならないかと考える。どうしても「アルバイトと正社員」と二つに考えてしまうが、そのように分けてしまう時点から極端に束縛が厳しくなるような気がする。アルバイトと正社員という、境界線を無くせないだろうか。または、「アルバイト」や「正社員」という言葉自体をなくして欲しい。働くフリーター側も「頑張って働いていればいつか必ず条件は良くなる」という“希望” が持てればやる気も出てくるというものだ。

### **就職しようと思ったことはありますか？**

- (男) 学生のときに就職活動に失敗してフリーターに突入。今はハローワークに通う無職。切実に就職したいが、どこの企業も条件レベルが高く「誰が受かるんだ？」と首をかしげるものばかり。なりたくてこんな立場になった訳ではない。意欲がある人間にチャンスを下さい。
- (男) 就職の条件がよくなったら、その時は考えるかもしれない。しかし、サラリーマン生活には忌避感を持っている。一番いいのは、自分なりの稼業でやっていく事だ。現在、アルバイトとはいえ仕事をしているのでそれでやっていくつもりだ。しかし、解雇と言う事になれば、闘うと思う。
- (男) 就職は高校卒業後、進学と並行して常に考えて来たが、自分がどんな職種に合っているか、向いているかが全く分からなかった。進学・就職への思考は常に持っていたが、それ以降が進まない。また「サラリーマンになりたくない」といったサラリーマンへの忌避感もあり、自分にできる事は、その時その時やるべき事を精一杯やることだ。
- (男) 自分がおもしろいと思うことをしたい。そう思ってフリーターになった。なので、その思いが重なる就職先があればいつでもほしい。けど、無いだけ。夢として、一応、小説なんかも書いているが、食うために小説を書こうとは思わない。バイトも何十種類も経験した。労働が辛いんじゃない、自分を曲げられなかった。子供の頃から、協調性は無かった。フリーターしているのはだからかもしれない。

### **就職するのはどんなとき？**

- (女) 一人になったとき。父が死んでしまったとき。姉がいるけど、結婚して、姓も変わってるし、頼らずに生きたい。でも、夢をあきらめることはできない。
- (女) 私がこうやってうじうじしてるのも「親」のおかげ。親という暖房があるから甘えている部分があると思う...私が就職する時はやはり親から自立をする時だと思う。自立したい!私だって普通の人並みの生活がしたい!と思う。
- (女) 私は就職難だからどこでもいいと思い、後先を考えずに就職した。しかし、日商簿記1級を取得してから自分の考えかたがかなり変わった。「いまの仕事では自分の専門スキルを活かすことができない。それならスキルを活かして自分で満足できる仕事したい」と思い公務員を目指し会社をやめ、1年契約の契約社員で働いている。

- (女)フリーターは自分の夢をかなえるための道具にすぎないと思います。なぜ、道具だと考えるというのは自分で時間の使える内容が決められるから。フリーターをやめるのは自分で納得する仕事が見つかるか、結婚するときかどちらかでしょう。
- (男)自分一人分さえ稼げないと思った時。抵抗しても正規雇用が圧倒的に強く、歯が立たないと悟った時。しかし、それくらいアルバイトが追い詰められた時は、正規雇用の口はないのではないかと思います。
- (男)それは、希望を無くし、人生を捨てた時、私は正社員になるであろう。私の保証は自分で作る。将来の日本を背負って立つ気持ちは全く無い。やりたい事をやってなにが悪いのか。正社員がそんなに偉いのか。私には理解できない。一度の人生をどう生きようか、責任は自分でとる。硬く決心したからこそ進める道だと私は思う。ただ、ひかれたレールに乗かって死に向かうなんて、絶対に嫌。やりたい事をやってこそ、楽しい日々を過ごしてこそ、人間だと思う。
- (男)ずっとひとりで生きていくつもりだったから、社員になる事は考えていなかった。歳を取るとつれだんだん体が言う事をきかなくなって来る。しかし歳相応のスキルが全くない。そしてある日突然立ち行かなくなってしまうのがフリーターの末路だ。

## 十年後には何をしていますか？

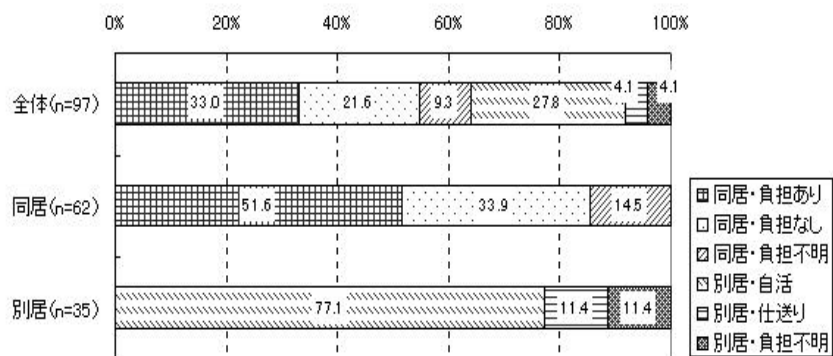
- (男)新しい自分と共に、新しい仕事をしていると思う。もちろん正社員として。そして、25歳の頃を振り返って、あれは今の自分への準備だったんだと思うだろう。でも、これはあくまでも希望。本当は10年先なんて、想像もできない。1年後だって、どうしているか分からないのだ。でも、今のフリーター生活をネガティブに捉えているようなことはない。自分から選んだ道だった。
- (男)殆ど変わらない生活をしているような気がしている。しかし先の事は、やはり分からない。結婚もしていないかもしれない。静か過ぎる生活をしているかもしれない。その時は「やはり従来のように就職していれば良かった」と思うかもしれないが、「こうなったのも時代の流れ」と思うかもしれない。とにかく「自分に正直な生き方は出来た」と思っていると思う。しかし「これで良かったのか」と常に疑問も感じていると思う。

### まとめ

女性の場合、「何になりたいのかよく分からなかった」という意見を多く目にした。バブル期に幼少時代を過ごして来た影響だろうか「将来自体にあまり不安を抱いていなかった、何とかなると思っていた」という意見の人も多かった。また、女性は将来の最終目標を「結婚」としている人も多いのも特徴だ。これは、彼女たちの親の世代では“女は結婚して家に入る”という観念の人が多かったからであろうか。男性の意見で多かったのは、父親がサラリーマンだったので、ただ漠然と自分もサラリーマンになるのだと思っていた人が多かったようだ。彼らはサラリーマンになると考えていたものの、そうなることにどこか嫌悪感を感じていたという。結局、男女問わず就職することが難しいものだとは考えてなか

ったので現在のような不況の中、就職難に喘いでいるのかもしれない。多くのフリーターがその働き方を不利な働き方だと認識しながらも、やりたいことを探すためにフリーターになるなどのフリーターを選択することには共感している。フリーター経験を通じて得られるのは、いろいろな経験・自由な時間・人間関係に関する能力などで、フリーター経験を通じてやりたいことが見つかった人は少数にとどまっている。そもそも、今回調べた中では「何のために働いているのか分からない」という声をよく見かけた。その答えがどうしても見つからない為フリーターを続けている人もいるようだ。もしフリーターの中にこのような人が沢山いたとしたら、これは不思議な現象だと私は思う。このような意見が生まれるのは、必死になって就職口を見つけなくても何とか生きていけるからなのか。下記の表でも示したとおり 60%以上のフリーターが親と同居している。自立の出来ていない若者が多くなってきているのかもしれない。

### 同居と生活費負担



### 「首都圏フリーターの意識と実態に関するヒアリング調査」

<http://www.jil.go.jp/happyou/bunya-isiki.htm>

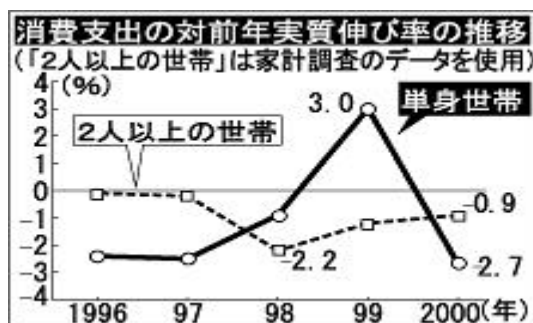
フリーターと無職者との違いはほとんどないと彼らは言っている。反対に、フリーターと正社員との違いはかなりある。現実的な職業キャリア形成という意味でフリーターは聖書インに比べて大きく遅れを取ってしまうからだ。フリーターと正社員では労働条件が全く違うからだ。現在のフリーターのあり方ではキャリアを身に付けることはできない。フリーターの労働条件、生活保障の問題はこれからもっと焦点を当てていくべき問題だ。

## 4. 社会保障のしくみへの影響

### 4.1 単身世帯収支調査より

低所得のフリーターが増えたことにより、社会の労働人口の所得の減少が考えられる。総務省の単身世帯収支調査(図2)によると、2000年単身世帯の月平均支出額は18万2319円と、99年から物価変動の影響を除いて2.7%減少している。単身世帯の消費支出が減少傾向にあることがわかる。

(図5)



(総務省 単身世帯収支調査)

また、日本労働研究機構によると、税金や保険料、年金の徴収の対象は正規雇用者であることが前提となっている。このままフリーターが増え続けると、国の税収入の損失、年金崩壊などの問題が浮上してくるという見方がある。税金、保険の基本的なしくみを理解し、そのうえでフリーターとの関係を見ることにした。

## 4.2 税金への影響

### 4.2.1 税金のしくみ

はじめに、税金の仕組みについて、簡単に整理する事にする。

日本国憲法には、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」(第30条)という、「納税の義務」が規定されている。

また、税金の役割は、以下のようになっている。

国および地方公共団体の財政の収入を公正する

所得再分配機能を持つ(所得の高い人から低い人へ・働く世代から子供世代へ)

ある種の特別な政策実現のため(景気対策としての減税など)

### 4.2.2 税金の種類

#### 所得税

そのうち、毎年継続的に発生するもの

給与所得...給料、賃金、ボーナスなどの所得

事業所得...商工業、農業などの事業をしている場合の所得

これらは源泉徴収となる。

#### 住民税

住民税は、所得翌年に税金を払う。つまり、雇用された翌年から課されることになる。

正規雇用者であれば、企業が労働者の給料から天引きでこれらの税金を徴収する。フリーターの場合、従業員としてしっかり把握できていない、計算が面倒なので税金の天引きはなし、という企業が多い。

### 4.2.3 どのような影響があるか

## 4.3 保険への影響

### 4.3.1 パートタイマー、契約社員の社会保険について

#### 条件

- ・ 所定労働時間・日数が通常の労働者の 4 分の 3 以上であれば、健康保険、厚生年金の被保険者となる。
- ・ 週所定労働時間が 20 時間以上で、1 年間引き続き雇用が見込まれば、雇用保険の短期労働被保険者となる。

### 4.3.2 健康保険と厚生年金

#### 国民年金のしくみ

国民年金は自営業者などの年金、厚生年金はサラリーマンの年金などと思われがちだが、現在の年金制度では厚生年金加入者も共済年金加入者も同時に国民年金の加入者となっている。つまり現在の年金制度は 2 階建て方式で、1 階部分は国民年金、2 階部分は厚生年金（共済年金）が受けもつ形になっている。

#### ・第一号被保険者

20 歳以上 60 歳未満の方で次のような人

- ・ 自営業の人
- ・ 農業・林業・漁業などの人
- ・ フリーターやアルバイト
- ・ 職に就いていない人
- ・ 学生

平成 3 年 3 月までは任意加入であった昼間部の大学生や各種専門学校の生徒の人  
も平成 3 年 4 月から 1 号被保険者として国民年金に加入することになった。

任意加入被保険者(国民年金に希望して加入できる人)

- ・ 20 歳以上 65 歳未満の人で外国に在住している日本国民
- ・ 60 歳以上 65 歳未満の人
- ・ 65 歳以上 70 歳未満の人

65 歳以上 70 歳未満の任意加入は、昭和 30 年 4 月 1 日以前生まれの人で、年金を受けるための資格期間が不足する場合に限る。

高齢任意加入とは、年金を受けるための資格期間が不足する人、または加入期間

中に保険料を納めていない期間がある人などが、年金を受ける資格を得たり、また、満額の年金に近づけるために 60 歳から 65 歳(資格期間が不足する人は最長 70 歳)になるまでの間、希望により加入することをいう。

#### ・第二号被保険者

厚生年金のある会社に勤める会社員や共済組合に加入している公務員など〔20 歳未満の人と 60 歳以上の人を含む〕

加入手続きは勤務先で行う。

保険料は、厚生年金保険料や共済組合掛金として、配偶者の有・無にかかわらず、給与からその額に応じて翌月の給与より天引きされる。厚生年金に加入する会社員や、共済組合に加入する公務員などは、同時に国民年金にも加入することになる。

#### ・第三号被保険者

20 歳以上 60 歳未満の方で厚生年金や共済組合加入者に扶養されている配偶者〔会社員や公務員の妻(または夫)〕

保険料は、配偶者の加入する厚生年金や共済組合でまとめて負担するため、個人で納める必要はない。また、配偶者の給与から天引きされるわけではない。

会社員や公務員の配偶者でも、自分で事業を営んでいたり、パート勤めをして一定額以上の収入がある場合は、1号被保険者になる。

年金・健康保険について、臨時に雇用される者で、次に該当する者は被保険者から除外される。

- ・ 同一の事業所において、1ヶ月以内で雇い入れられる者
- ・ 同一の事業所において、2ヶ月以内の期間を定めて使用される者
- ・ 同一の事業所において、4ヶ月以内で季節的業務に使用される者
- ・ 同一の事業所において、6ヶ月以内の臨時的事業の事業所に使用される者
- ・ 事業所の所在地が一定しない事業所に使用される者

パートタイマーや契約社員などは、常用的雇用関係にあたる。

| 資格要件           | 健康保険 | 年金        |
|----------------|------|-----------|
| 1日または一週の所定労働時間 | 被保険者 | 厚生年金の被保険者 |

|                                     |      |                                |
|-------------------------------------|------|--------------------------------|
| および1ヶ月の所定労働日数が通常の4分の3以上             |      | (国民年金の第2号被保険者)                 |
| 所定労働時間・日数が通常の労働者の4分の3未満で年収が130万円未満  | 被扶養者 | 厚生年金の被保険者の被扶養配偶者(国民年金の第3号被保険者) |
| 所定労働時間・日数が通常の労働者の4分の3未満で、年収が130万円以上 | 被保険者 | 第1号被保険者                        |

健康保険と厚生年金は、65歳までは、全ての人が加入しなければならない。企業は従業員を被保険者にする義務があり、正規雇用者は強制的に加入している。

上の表のように、労働日数、収入とも条件が満たされない場合のアルバイトについては、自分でこの2つに加入手続きをしなくてはならない。

#### 4.3.3 雇用保険について

雇用保険とは

雇用保険法第1条では、雇用保険の目的を定めている。

「労働者が失業した場合および雇用の継続が困難となる事由が生じた場合に必要な給付を行い、労働者の生活及び雇用の安定を図るとともに求職活動を容易にする等その就職を促進し、あわせて労働者の職業の安定に資するため、失業の予防、雇用状態の提正及び雇用機会の増大、労働者の能力の開発向上、福祉の増進を目的とする」

つまり雇用保険の目的は、失業した場合の生活保障だけでなく、雇用の安定、雇用機会の増大、労働者の福祉の増進なども含んでいる。

パートタイマー、アルバイト等の短時間労働者の場合、次の条件をすべて満たせば被保険者(短時間労働被保険者)となる。

1. 1週間の所定労働時間が20時間以上であること。
2. 1年以上引き続き雇用されることが見込まれること。

これらの条件を満たし被保険者となった場合、もし失業しても再就職手当(就職を促進するための給付)を受けることができる。

また、雇用保険のような労働者のセーフティネットとして、他に労災保険がある。

労災保険は、仕事が原因となる従業員の疾病、けが、死亡などに備えて、事業主だけ

の拠出でつくった保険制度であり、正社員・アルバイトの区別なく強制加入となる。

けが・病気などが労災保険の対象となった場合、労災保険の給付が優先し、健康保険からの給付は受けることができない。

## 5. 政策にできる事

フリーターを重要な労働力としている会社もある現在では、フリーターが存在を無くすべきと一概には言えない。しかし、一方で、社会保障政策に与える影響も否定できない。そこで、フリーターになる前に、高校や大学で、キャリアカウンセリングを実施し、各自に自分なりの職業観を持たせるように促す事が必要といえよう。

また、学校の授業をより、仕事に直結したものとしたり、学校側がインターンシップの推進に図ったりするのもよいであろう。

すでにフリーターとなっている人に対しては、ハローワークなどの専門機関が相談・援助をできるように、各機関の充実が求められる。

さらには、フリーターや派遣の増加などといった就業形態の多様化に即した社会保障制度を構築する事もできるのではないだろうか。

いずれにせよ、フリーターの増加問題をないがしろにすべきではない。何らかの対応策をとっていくべきであろう。

## 6. まとめ

コメント：

現在、多くの場面でフリーターは問題視されているが、今の世の中では目標を持ち、計画を立てても全く将来の保障は全くない。会社にいつ解雇されるかは誰にも分からない。仮に勤め続けられても、単純労働、低収入、長時間労働、と人間として幸せを実感できる仕事は多くないのかもしれない。

フリーターには正規雇用を望んでいるが、なかなかきちんとした職を得られないタイプと、ただ何となくフリーター生活をしているタイプとの2パターンに分けられるが、「やむを得ず」フリーターになってしまった人たちは、不況の中手探りで自らの人生を一生懸命生きているのではないだろうか。このような種類のフリーターは偉いと私は思う。本当に問題なのは現代の若者に無目的な人が多い事だろう。「夢」を言い訳にフリーターという、一見自由な道を選んでしまっている者も多そうだ。

そして今後、何より問題となってくるのは、『親に頼っていればなんとか生きていけるから就職しない』と考える若者が増える事であろう。安定した収入が得られないフリーターが増えるのには、親の経済力の支えがあるからではないかということである。卒業後すぐに若者が安定した収入を得る仕事に就かなければ生活出来ないほどの時代ではないのだろう。60%以上のフリーターが親と同居している。フリーターは必死になって就職口を見つけないでも何とか生きていける時代の象徴なのかもしれない。

須田 早織

1997年に、151万人を突破したとされるフリーターも、いまや社会に欠かせない存在となっている。不況の影響を受け、人件費を削減したい企業にとっては、都合の良い存在であるからだ。一方、フリーターの自由度や気軽さに魅力を感じている人にとっても、フリーターは、都合の良い働き方であるといえる。だからといって、フリーター問題を客観視する事はできない。背景には社会保障の問題や裕福な家庭への甘えの問題、就職希望者の受け皿不足の問題など様々な問題が存在しているからだ。これからは、フリーターも1つの働き方として今までよりも認められるようになるかもしれない。ただ、その背景には様々な問題があるということを肝に銘じておくべきであろう。

小西 利佳

本来、働き方というのは個人の選択によるものだ。しかしフリーターの増加は、社会のしくみに確実に影響をもたらしている。そのひとつとして、高齢化・少子化による年金制度のバランスの歪みに拍車をかけていることがあげられる。平均月12万という収入では、給料からの天引きがなければ、自ら国民年金を納入するフリーターは少ないだろう。結果として年金制度が機能しなくなる可能性を強めることになる。考えなければならないのは、年金など生活保障が受けられない個人の将来的な不安だけではない。現代の社会が変化する要因のひとつとなっている事実を、フリーター自信も認識することが必要なのではないかと思う。

小山 絵理